

2008年

9月15日（月曜日） - 老いを敬う、老いを喜ぶ -

敬老の日を迎えた。本日は網野町小浜区、昨日は同じく北大路区で敬老会が開催され、出席をさせていただきました。高齢者の皆様には、常日頃から地域でのお暮らし、お仕事、様々なご活動を通じてこの京丹後の環境や文化を営々と守っていただき、こんなに素晴らしく豊かに育ていただきました。京丹后市に暮らす皆様の後輩として、大いなる恵みを今日に築いていただき、心から深く感謝と敬意を捧げます。

敬老の日というのは、老いや成熟を敬い、感謝し、今後のますますのご健勝をお祈りさせていただく機会でもあると思いますが、敬老の心は何も敬老の日に限らず日ごろから銘々で大切にしておかなければなりません。先輩の皆様が築いて尽していただいた様々なご恩に日ごろから思いと感謝を深くしていくこと、そんな報恩の思いの積み重ねと広がりの中で、各人各人の未来の弥栄（いやさか）へと導いていただける絆もいただけるのではないかと感じています。もとより、いただいたご恩に深く思いを及ぼせる中で自然、心から湧き出てくる感謝の思い自体、喜びの感情であり、その喜びこそ真の弥栄であり、敬老の絆であります。

本市には、100歳以上の福寿の方が64名住んでおられます（9月1日現在）。人口一人当たりの百歳以上福寿者の割合は京都府で一、二を競うほどで全国の市の中でも傑出して多い瑞況にあります。中でも丹後町中野にお住まいの木村次郎右衛門さんは111歳で男女通じ府内最高齢、男性では全国第二位の長寿でおられます。仕事柄光栄にもお話を伺う機会もいただきお尋ねしますとご長寿の秘訣は「食を細く」また「くよくよしない。忘れること。」とも、「苦にするな、嵐の後に日和あり。」ともおっしゃられて、朝の深呼吸と仰向け足運動50回を日課とされ、相撲や国会中継を楽しみに日々笑顔を重ねられておられます。心からのお祝いと深い敬意を捧げますとともに、ますますのご長寿をお祈りしています。

今後、本市として多くの長寿者の皆様のご経験と知恵を広く共有に努めこのような百歳福寿が多い特徴がますます伸びていくお手伝いをしていきたいと願っておりますとともに、長寿それ自体をいよいよ喜べる社会づくり、「老いを喜ぶ」高齢者のいきがいづくりを進めていきたいと思っています。"長寿それ自体を喜ぶまちづくり"を掲げます中、敬老の深い感謝とともに、今後ますます長寿を広く伸ばしていただいて長寿が宝の「老いも喜ぶ」まちづくりを大いにリードしていただけますよう心から念じ尽くしてまいります。